

農林水産部 成果報告

農林水産部長 藤 田 嘉 裕

部局達成度

				
1	8	—	6	3

総 括

「第2次福井市農業活性化プラン」、「福井市森林整備・林業成長産業化推進プラン」及び「福井市水産業振興プラン」に掲げる各種施策を推進し、第八次福井市総合計画に掲げる「みんなが輝く全国に誇れるふくい」を実現するため、各種取組を進めてきました。

農林水産業すべての分野で課題となっているのが担い手・後継者不足です。就業イベントへの出展や見学ツアーなどを実施したほか、就業後の所得安定を図るため、奨励金の給付や資格取得、機械設備整備などへの支援を行い、担い手の確保・育成に努めました。

農業では、畜産経営緊急支援や農業生産コスト高騰緊急支援により、農業生産者の負担軽減に努めたほか、三里浜で発生した突風や能登半島地震で被災した農地・農業用施設に対する復旧支援を実施し、営農の継続につなげています。また、飼料用米等の作付けが増加したことで、主食用米の生産面積は目安の範囲内での作付けとなりました。加えて、農作業の省力化や農産物の高品質化による収益性の向上を図るため、スマート農業機器導入支援を行うとともに、技術や知識習得のための研修会・体験会についての情報提供を行いました。

地域ブランド化の取組では、金福すいかの後継品種をデビューさせ県外販路先を獲得したほか、オリーブでは供給した苗木が順調に生育しています。

流通販路の開拓では、首都圏や海外でのイベント、商談会等への事業者参加を促進するとともに、ECサイト「ふくいさん」への出品数増加に取り組みました。今後も連携中枢都市圏の市町と連携しながら、製品の認知度向上を図り、販路拡大やブランド化を進めます。

有害鳥獣対策では、農作物や生活環境等への被害を低減させるため、捕獲隊や集落と連携し、捕獲と防除に取り組みました。農作物被害の多い集落に対しては侵入防止柵の維持管理点検強化などの指導を行うとともに、未普及集落に対しては侵入防止柵設置の支援に取り組みます。

林業では、森林の適切な経営管理のため、森林経営管理法に基づく所有者への意向調査を行うとともに、森林環境譲与税を活用し、除間伐等の森林整備やドローンの国家資格取得の支援を行いました。また、木育・森育施設の木質化又は木製品の導入や、薪ストーブなどの木質バイオマス利用機器の導入に対する支援を行い、森林資源の循環利用を図りました。

水産業では、水産資源の維持を図るため、ヒラメ稚魚やアワビ稚貝などを放流するとともに、漁業所得の向上を図るため、サクラマスやバフンウニの養殖を推進しました。また、啓新高校や市内食品加工業者等と連携し、未利用・低利用魚を活用した商品開発に取り組み、商品化につなげることができました。今後も水産資源の保護やブランド化を推進することにより稼げる産業への転換を図ります。

中央卸売市場では、安全・安心な生鮮食料品の安定供給に努めたほか、SNSやホームページ等を活用し地場産品等の情報発信に取り組み、流通拠点としての市場の役割を周知しました。

組織目標ごとの達成状況

I. 水田園芸等の複合経営やスマート農業の普及促進を図るとともに、意欲ある若者などが農林水産業に参入・定着する取組を進めます

園芸の推進では、認定農業者への助言や指導などにより、園芸に取り組む経営体の割合が増加しました。併せて、種苗購入支援を含めた園芸関係の支援制度等の周知に幅広く取り組みましたが、生産推奨品目のうち一部品目が供給過多となったことから、生産推奨品目の作付面積は昨年より減少しました。水田の汎用化では、主食用米の生産面積について、需要に応じた生産数量の範囲内で作付けを行うことができました。

スマート農業の推進では、国の事業を活用し、自動操舵システムの導入を支援したほか、小規模農家については市の独自事業を創設し、農業用ドローンの導入を支援したことで、スマート農業導入経営体数を増加することができました。

農業の担い手の確保では、就農者募集フェアへの出展や園芸産地の見学ツアーを開催し、本市での就農を呼びかけましたが、目標人数の確保には至りませんでした。

今後も、様々な取組を進めながら、農の魅力を発信し、新規就農者の確保に努めます。

II. 特産品の差別化や高付加価値化を図り、ブランド力を高めるとともに、ECサイトなどを活用し、市内外への販路開拓や認知度向上に取り組みます

流通販路の拡大・開拓では、シンガポールの消費者を対象とした料理教室やライブコマースなど、国内外でイベントや商談会を開催し、事業者参加を促しました。また、ECサイト「ふくいさん」の出品数増加に取り組み、目標を達成しました。今後もイベントECサイトやの魅力を高め、製品の認知度向上に取り組みます。

金福すいかは、後継品種への切替えにより新しい販路先も獲得でき、順調に進むかに思いましたが、試験栽培時にはみられなかった「尻割れ症」が多く発生したため、生産量が減少し、県外出荷は目標値に至りませんでした。

今後は、尻割れ症を解消するため、引き続き試験栽培を行い、得られた結果を栽培指導に反映していくことで、生産量の向上に努めていきます。

III. 市内農産物や農業への理解や愛着を深めるため、食育や農業体験の機会の提供に取り組みます

食育・地産地消の推進では、ブランド米いちほまれ等の市内農林水産物を、学校給食で提供するほか、市内小学校で農業体験授業を実施しました。今後も引き続き「第4次福井市食育推進計画」の基本理念「ふくいの食を通じて心身ともに健康で豊かな食文化をつないでゆく」の実現に向けて取り組んでいきます。

IV. 地域の農地保全活動を支援し、自然や食などの地域資源を活用したコミュニティビジネスを推進します

地域の農地保全活動の支援では、多面的機能支払交付金制度を活用した地域共同による農地・水路等の保全管理や農業基盤施設の長寿命化対策をはじめ、県・市単独土地改良事業等を活用して農業の生産コスト縮減を図りました。

また、有害鳥獣対策として、捕獲隊や集落と連携し、有害鳥獣の捕獲と侵入防止柵の設置など防除に取り組みました。今後も、未設置の集落へ鳥獣害対策協議会の設立を促し、集落ぐるみの対策につなげます。

加えて、農地・農村環境の維持・活性化を図るため、耕作放棄地の利活用に取り組みました。今後も引き続き地域資源を活かした取組を支援することで、地域活性化に向けたコミュニティビジネスを進めていきます。

V. 地域交流の活性化を図るとともに、安心して利用できる休憩空間の場を提供します

一乗谷あさくら水の駅では、指定管理者による施設PRや季節に応じた利用促進イベントの開催など誘客活動を積極的に行うとともに、県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館や周辺地域と連携した取組を展開し、誘客の促進を図りました。

特に令和5年度は、朝倉義景公没後450年を記念して、地元食材を活用した特別料理の提供や一乗谷朝倉氏遺跡の万灯夜と連動したイベントを開催しました。

来場者数については、秋の行楽シーズンの天候が不順であったことにより、目標の達成ができませんでした。

来年度は、一乗地区や関係団体と一層連携を深め、北陸新幹線福井開業を踏まえた更なる誘客に取り組めます。

VI. 適正な森林整備と木材利用の普及啓発を推進し、木材の有効活用に取り組みます

森林資源の循環利用を図るため、森林環境譲与税を活用し、林業事業体に高性能林業機械レンタル等を支援したことにより、効率的な搬出作業を進めることができ、木材生産量は目標を達成することができました。また、税情報を活用した所有者の把握や業務委託による迅速で効率的な調査に取り組み、森林経営管理法に基づく意向調査に着手することができました。

また、民間主体の自伐型林業大学校への支援に加え、ドローンの国家資格取得などの取組により、林業に担い手育成を図ることができました。

木育・森育施設の木質化又は木製品の導入を図ることや、薪ストーブなどの木質バイオマス利用機器の導入に対し支援することで森林資源を無駄なく有効利用することができました。

令和6年度から森林環境譲与税の徴収が始まるため、森林環境譲与税の使い道を広く市民に発信することで、森林への関心を高めるとともに森林整備の促進に繋がっていきます。

Ⅶ. つくり育てる漁業を推進するとともに、水産物の販売力強化等の取組を進めます

つくり育てる漁業では、アワビの中間育成放流及びヒラメ、マダイ、サザエの直接放流を行い、水産資源の維持・増大を図りましたが、台風や急潮等で被災した鷹巣地区の定置網漁業が操業できなかったことから、目標を達成することができませんでした。

水産物の販売力強化の取組としては、定置網漁業で水揚げされる低利用魚の有効活用を図るため、県、県漁連、水産加工・流通業者等で構成する検討会を開催するとともに、啓新高校調理科と市内食品加工業者等が商品開発に取り組み、4品の新商品を開発しました。

また、こしのさかなまつりや鮮魚直売会を支援することで、地元水産物の消費拡大を推進しました。

Ⅷ. 地場産品を取り扱う中央卸売市場の認知度向上を図るとともに、安定供給のため施設の整備に取り組みます

食の安全・安心な流通拠点としての役割を周知するため、SNSやホームページ等を活用し、地場産品等の情報発信や市場見学会を実施しました。

場内事業者やふくい鮮いちば実行委員会と連携し、ふくい市場フェスタを4年ぶりに開催し多くの方に来場していただきました。また、「ふくい鮮いちば」では、当初予定していなかったイベントを加えるなど工夫を凝らした取組を行い、目標を達成することができました。

令和6年度には市場開設50年を迎えることから、記念事業（記念式典、市場フェスタ）を開催します。また、魅力的なイベントの実施や地場産品等の情報発信を継続的に行い、北陸新幹線福井開業による効果を生かし、観光誘客への取組を強化していきます。

施設の計画的な更新工事については、関係者との協議や日程調整を適切に行うことで、目標を達成することができました。今後も、計画的な施設の改修及び機器の更新を行い、市場機能を維持していきます。

I. 水田園芸等の複合経営やスマート農業の普及促進を図るとともに、意欲ある若者などが農林水産業に参入・定着する取組を進めます

1	園芸の推進と水田の汎用化	2 顔触れを ゼロに	8 働きがいも 経済成長も	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	生産推奨品目を中心とした水田園芸や果樹栽培の普及・拡大を推進し、複合経営への転換を促します。 また、「水稻＋麦＋大豆・そば」による２年３作を継続するとともに、主食用米から麦や大豆などへの転換を進め、主食用米の需要に応じた生産を徹底します。				
取組内容	○園芸に取り組む経営体数、生産推奨品目作付面積 ・麦・大豆・そば・その他野菜の作付けなど水田活用による支援制度等の周知・案内（４月） ・ミディトマト専門部会、オリーブ生産組合、鷹巣梅生産組合で種苗支援制度を周知・案内（４～３月随時） ・汎用化された水田の現地における確認（５～１２月） ・水田の畑地化を促進する事業に関する周知・次年度要望調査の実施（１月～２月） ・園芸経営を希望する新規就農者への就農支援、就農後の経営サポート（随時） ・認定農業者の認定更新ヒアリング時に園芸作物の作付けを働きかけ（随時） ・種苗費の支援（ミディトマト、オリーブ、ウメ）（延べ１６経営体） ・農業機械、施設等の導入支援（１件） ○主食用米の生産面積 ・生産数量の目安、水田活用による支援制度等を農家組合長会議で周知・説明（１月）				
指 標					
計 画			結 果 ・ 成 果		
④ 園芸に取り組む農業経営体（担い手）の割合 ：４８．５％ 生産推奨品目作付面積 ：１６７．０ha（４年度）→１７０．０ha（５年度） 主食用米の生産面積：４，５９０ha 以内			④ 園芸に取り組む農業経営体（担い手）の割合 ：４８．７％ 生産推奨品目作付面積：１５９．７ha 主食用米の生産面積：４，３３９ha		
成果・課題	園芸に取り組む農業経営体の割合については、５年ごとの認定農業者の更新時ヒアリングや、新規の法人や集落営農組織設立時の相談において、園芸を組み入れた経営計画作成の助言や指導を行った結果、目標を達成しました。 生産推奨品目作付面積については、各種会議や説明会の機会を捉え、種苗支援を含めた園芸関係の支援制度等の周知を幅広く実施し、カボチャや白ネギ等の面積が拡大したものの、供給過多により小豆やキャベツが面積を大きく減らした結果、生産推奨品目の作付面積は減少しました。 主食用米の生産面積については、各農家の協力の下、飼料用米等の作付けが増加したため、計画の範囲内での作付けを行うことができました。 引き続き、各種支援制度の周知を行うとともに、園芸の推進と水田の汎用化に取り組みます。				

2	スマート農業の推進	DX	2 脱炭素 社会 実現 に向け 環境 負荷 を 減らす	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	達成度	
実 行 内 容						
行動目標	農業者の高齢化や後継者不足が大きな課題となる中、持続可能な農業を実現するため、スマート農業の導入を進め、農作業の省力化や栽培技術の向上を図ります。					
取組内容	○スマート農業導入経営体数					
	・「営農継続支援事業補助金」の創設（市単独事業） 事業内容：担い手が不在又は担い手への農地の集積が進んでいない集落・地区における営農の継続を図るため、農業機械の導入を支援する。 補助対象：トラクター、田植機、コンバイン、その他水稻栽培に必要な農業用機械 補助率：1/3 以内（補助上限額 1,000 千円） ・スマート農業機器の導入（3 経営体） 1 経営体（自動操舵システム）【産地生産基盤パワーアップ事業補助金（国）】 2 経営体（ドローン）【営農継続支援事業補助金（市）】 ・研修会「ふくいスマート農業推進大会」（県、（一社）福井県農業会議、福井県農業協同組合）					
指 標						
計 画			結 果・成果			
総42 スマート農業導入経営体数（累計） ：42 経営体（4 年度）→43 経営体（5 年度）			総42 スマート農業導入経営体数（累計） ：45 経営体			
成果・課題	国の「産地生産基盤パワーアップ事業（麦・大豆機械導入事業）補助金」を活用し、市内1事業者に対して、自動操舵システムの導入にかかる経費を一部補助する事業を実施し、スマート農業機器の導入を支援しました。 また、集落で営農の柱となるなど、意欲ある農業者に対し、今年度より新たに「営農継続支援事業補助金」を市独自に創設し、市内2事業者に対しドローンの購入にかかる経費を一部補助しました。 高齢化が進行し、担い手の減少が見込まれる中、本市農業にとって、省力化が可能となるスマート農業機器の普及は喫緊の課題ですが、導入経費が高い上、活用には一定の技術や知識の習得が必要です。 今後も、導入経費の支援に加え、国や、メーカー、JA 等が行う研修会や体験会についての情報提供を行うなど、多様な関係者と連携して、スマート農業の普及に向けた取組を進めていきます。					

3	担い手の確保	8働きがいも 経済成長も	9産業と技術革新の 基盤をつくろう	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	就業イベントへの出展、見学ツアーなどを通して、本市の農林水産業を広くPRし、新規就業者の確保を目指します。併せて県や地域と協力しながら農地の斡旋や里親農家とのマッチングなど、受入環境の整備を行います。 さらに、就業後の所得安定を図るため、奨励金の給付や資格取得、機械設備などへの支援を行い、就業意欲のある若者などの参入と定着を進めます。				
取組内容	○農林水産業への新規就業者数 【農業】(1人) ・ふくい園芸カレッジ生への説明会(1月) ・就農相談会への出展(新・農業人フェア農業EXPO大阪11月、東京1月) ・市内園芸産地見学ツアーの実施(10月、12月、2月) ・認定新規就農者への奨励金給付、農業用機械施設支援、小農具支援 【林業】(7人) ・就業相談会 11月18日大阪 森林の仕事ガイダンス(全国森林組合連合会主催) 11月25日福井 森林の仕事ガイダンス(福井県森林組合連合会主催) 1月27日大阪 自伐型林業移住マッチングフォーラム(全国自伐型推進協会主催) 【水産】(1人) ・新規就業者フェア(7月22日大阪) ・既就業者への奨励金給付 ・ふくい水産カレッジの研修費用の一部支援				
指 標					
計画			結果・成果		
農林水産業への新規就業者数：16人			農林水産業への新規就業者数：9人 〔内訳〕 農業1人、林業7人、漁業1人		
成果・課題	農業は、大阪等で開催された就農相談会出展や見学ツアー開催などを実施したものの、物価高騰などの原因により就農が難しい状況となったため、新規就業者は1人増加に留まり、目標を達成することができませんでした。 今後は、園芸産地における農地のマッチングや就農後の経営初期の支援、県などの関係機関と連携した就農希望者の巡回・面談など、既存の取組に加え、新たに親元就農する新規就業者への支援を実施し、取組を強化します。 林業は、大阪等で開催された森林の仕事ガイダンスや移住マッチングフォーラムへの出展などを通して、本市での就業を呼びかけたことにより、新規就業者数の目標は達成しました。また、新規就業者が安心して林業経営を営むことができる環境を整備するため、就農後の初期投資の支援などに取り組みました。これらの取組を継続し、さらに強化を行うことにより、新規就業希望者の誘致及び新規就農者の経営の安定化を図っていきます。 水産業では、新規就業者フェアへ出展するとともに、市の支援事業をホームページやパンフレット等で周知することにより、潜水漁業者1名を確保し、目標を達成しました。今後も、漁業協同組合や受入船主の意向確認を行うとともに、新規就業者フェア等で本市漁業の魅力を発信することで新規就業者の確保に努めます。				

Ⅱ. 特産品の差別化や高付加価値化を図り、ブランド力を高めるとともに、ＥＣサイトなどを活用し、市内外への販路開拓や認知度向上に取り組めます

4	流通販路の拡大・開拓	DX	2 販路を ゼロに	9 産業と技術革新の 基盤をつくらう	達成度	
実 行 内 容						
行動目標	連携中枢都市圏の各市町と連携し、特産品の知名度向上に取り組めます。 また、大都市圏等でのPR・販売イベントやECサイトの活用のほか、新たに、海外市場におけるライブコマースや現地飲食店でのフェアなどにも取り組むなど、効果的な情報発信に努めるとともに、北陸新幹線福井開業の好機を生かせるよう、観光部局等とも連携し、販路拡大・開拓を進めます。					
取組内容	○園芸作物販売額・販路拡大事業（イベント・商談会等）への参加事業者数 ・越前ふくいマルシェ開催（10/14～10/15 46 事業者） ・越前ふくい mini マルシェ開催（1 回：3/20 7 事業者） ・県と連携し、福井美食フェア開催（1/15～2/14 首都圏飲食店 87 店舗参加） ・首都圏ふくいブランド発信イベント実施（越前福井フェア 4 回：7 月、1 月、2 月、3 月） ・輸出セミナーの開催（8/21 20 事業者） ・シンガポールインフルエンサープロモーションイベント、一般消費者向け料理教室（11 月） ・シンガポールライブコマース（12/5、6 14 事業者） ・沖縄大交易会への参加支援（11/16、17 2 事業者） ・沖縄県と連携し、シンガポールアンテナショップ出店（2 月 2 事業者） ・在来種そば PR パンフレット（3 月）、在来種そば PR 写真展（3 月） ・ふくいとそばインスタグラムキャンペーン（3/16～3/31） ・県と連携し、そばスタンプラリー開催（2 回：7/14～9/30、11/1～1/31） ○ECサイト「ふくいさん」出品数 ・新規に 35 商品をサイトに掲載（市内 59 出店、10 酒蔵）					
指 標						
計画			結果・成果			
④43 園芸作物販売額 ：9.4 億円（4 年度）→9.7 億円（5 年度） 販路拡大事業（イベント・商談会等）への参加事業者数 ：60 事業者（4 年度）→ 65 事業者（5 年度） ECサイト「ふくいさん」出品数 ：133 品（4 年度）→ 150 品（5 年度） 新幹線開業に向けたマルシェの開催：2 回			④43 園芸作物販売額：9.7 億円（見込み） 販路拡大事業（イベント・商談会等）への参加事業者数：65 事業者 ECサイト「ふくいさん」出品数：170 品 新幹線開業に向けたマルシェの開催：2 回			
成果・課題	販路開拓に取り組む事業者数や販路拡大事業への参加事業者数については、生産者に対し、県内外でのイベント出展を幅広く呼び掛けることにより、目標を達成しました。引き続き、事業者の積極的参加を促す事業を展開していきます。 農林水産物PRを目的としてオープンしたECサイト「ふくいさん」は、出品数を増加し、サイトの魅力を高めることにより、会員登録者数や売上を伸ばしてきました。引き続き、出店者や出品数の拡充を図りながらサイトの魅力を高め、認知度向上に取り組んでいきます。					

5	地域ブランド化の取組と園芸農家への支援	8働きがいも経済成長も	9産業と技術革新の基盤をつくろう	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	金福すいか後継品種への切替えを円滑に進め、高品質な収穫物の生産体制を確立し、県外出荷を促進します。 また、オリーブの安定した収穫を早期に実現するため、定植数の増加に向け支援します。 さらに、生産現場の課題解決に向けた栽培実証試験を実施し、特産品の高付加価値化を目指します。				
取組内容	○金福、銀福すいかの県外出荷個数 ・金福すいか後継品種「新・金福」、銀福すいかの優良苗を生産計画どおり出荷 ・金福すいか後継品種発表記者会見および試食会の開催 ・地域商社及び農政企画課と連携し、新規出荷先である千疋屋や飛鳥Ⅱに出荷 ・非破壊糖度計を活用した選別の実施 ・尻割れ症対策のため、秋作にて要因検証試験を実施 ・生産者と品質向上に関する栽培技術の意見交換会を実施 ○オリーブ苗木定植本数 ・「ふくい育ちのオリーブ苗木」を育成し、オリーブ生産組合へ良質な苗木を供給（無償提供） ・植付時の配置計画や作業方法、管理について技術指導を実施 ○栽培実証試験数 ・テーマごとの（野菜6テーマ、果樹5テーマ、花卉4テーマ）実証試験を実施				
指 標					
計 画			結 果・成 果		
金福、銀福すいかの県外出荷個数 ：3,976 個（4 年度）→4,200 個（5 年度） オリーブ苗木定植本数 ：2,500 本（4 年度）→2,750 本（5 年度） 栽培実証試験数：15 テーマ			金福、銀福すいかの県外出荷個数：2,910 個 オリーブ苗木定植本数：2,750 本 栽培実証試験数：15 テーマ		
成果・課題	金福、銀福すいかの県外への出荷個数については、試験栽培時には見られなかった金福すいか後継品種の「尻割れ症」により、着果数の3割が出荷不能となりました。また、後継品種への期待感から銀福すいかから金福すいか後継品種に栽培をシフトする生産者が多かったことで銀福すいかの生産量も減少し、目標を下回る2,910個の結果となりました。 オリーブ苗木定植本数は、当初計画どおり生産組合へふくい育ちのオリーブ苗木を供給することができ、目標数値である累計2,750本の定植を達成することができました。 栽培実証試験は、職員が設定した銀福すいかの後継品種育成や越前水仙圃場改良試験などの課題を着実に実施し、目標としていた15テーマを達成しました。 次年度も、特産化をすすめる園芸作物の実証試験を引き続き実施し、生産量の向上に努めていきます。				

Ⅲ. 市内農産物や農業への理解や愛着を深めるため、食育や農業体験の機会の提供に取り組みます

6	食育・地産地消の推進	2 県産を ゼロに 	8 働きがいも 経済成長も 	達成度	
実行内容					
行動目標	農林漁業者等との交流や体験活動機会の提供により食文化についての理解を促し、地場産農林水産物の認知度向上を図るとともに、直売所等での販売イベントや学校給食での活用等により、食育・地産地消を推進します。				
取組内容	○学校給食における地場産農林水産物の使用品目数：25 品目 ・米、大豆、大麦、トマト、越のルビー、きゅうり、なす、ねぎ、キャベツ、小松菜、越前水菜、ディノケール、大根、にんじん、さつまいも、じゃがいも、さといも、かぶ、きょうふく、えのきだけ、まいたけ、さごし、さば、とびうお、ふくいサーモン ・県、JA と連携し、市内小中学校に対し、いちほまれを給食で提供（11～3 月） ○その他、食育・地産地消関連事業 ・県と連携し、市内小学校で農業体験等授業を実施（9 月～1 月） 実施実績：味噌づくり・魚さばき・そば打ち 14 学校 22 学級 ・県と連携し、市内小中学校で味覚（だし）の授業を実施（9 月～1 月） 実施実績：10 学校 24 学級 ・まちデリ（ミニミニ越前ふくいマルシェ）開催（4 回：9/27、10/4、10/11、10/18） ・越前ふくいマルシェ開催（10/14～10/15 46 事業者） ・越前ふくい mini マルシェ開催（1 回：3/20 7 事業者） ・㈱キューピーとの連携により県内ヤスサキ 11 店舗にて販売イベント開催（1 回：7 月） 取扱品目：越のルビー ・㈱キューピーとの連携により県内ハーツ 10 店舗にて販売イベント開催（2 回：10 月、2 月） 取扱品目 8 品目：ディノケール、きょうふく、越のルビー、九頭竜まいたけ等 ・㈱キューピーとの連携により学校給食での三里浜べじふる PR（ディノケール、きょうふく等） 市内小中学校 73 校で給食提供（1～2 月）				
指標					
計画			結果・成果		
学校給食における地場産農林水産物の使用品目数 ：25 品目			学校給食における地場産農林水産物の使用品目数 ：25 品目		
農業体験等授業実施校数 ：13 校（4 年度）→15 校（5 年度）			農業体験等授業実施校数：14 校		
成果・課題	学校給食における地場産農林水産物の使用品目数については、25 品目を達成しました。 農業体験等授業実施については、味噌作り、魚さばき、そば打ち体験への支援を行いましたが、原材料費の高騰により実施校数を増やすことができませんでした。 来年度も引き続き「第 4 次福井市食育推進計画」の基本理念「ふくいの食を通じて心身ともに健康で豊かな食文化をつないでゆく」の実現に向けて、農林漁業者等との交流や体験活動、学校給食等におけるいちほまれの提供など、地場産農産物の利用促進を図り、地産地消を推進していきます。				

IV. 地域の農地保全活動を支援し、自然や食などの地域資源を活用したコミュニティビジネスを推進します

7	多面的機能支払活動組織の広域化を支援	2 廃棄を ゼロに 	12 つくる責任 つかう責任 	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	人口減少や高齢化により、農業生産基盤の保全管理活動を行う人員の確保が困難となっています。地域住民が一体となり、農地農村の多面的機能を維持するため、集落間での連携による広域化に向けた支援を行います。				
取組内容	○多面的機能支払活動組織の広域化組織の団体数：累計9団体 ○広域化に向けた説明会開催 5回 1回目：7月4日（清水土地改良区：第1回広域化協定準備委員会） 2回目：9月28日（清水土地改良区：第2回広域化協定準備委員会） 3回目：11月28日（清水土地改良区：第3回広域化協定準備委員会） 4回目：12月26日（清水土地改良区：第4回広域化協定準備委員会） 5回目：2月27日（清水土地改良区：第5回広域化協定準備委員会）				
指 標					
計画			結果・成果		
④46 多面的機能支払い活動組織の 広域化組織の団体数（累計） ： 8団体（4年度）→9団体（5年度） 広域化に向けた説明会開催数：3回			④46 多面的機能支払活動組織の 広域化組織の団体数：累計9団体 広域化に向けた説明会開催数：5回		
成果・課題	清水土地改良区及び土地改良区管内の多面的機能支払活動組織に対して、広域化協定に向けた準備委員会を5回開催しています。 その結果、清水土地改良区管内において、令和5年度に広域化協定を締結され、広域化組織の団体数が累計9団体となりました。 来年度においても、土地改良区等に広域化についての説明会を開催することで、広域化に向けた支援を行っていきます。				

8	有害鳥獣対策の推進	11 住み続けられる まちづくりを	15 陸の豊かさも 守ろう	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	有害鳥獣による農作物や生活環境等への被害を低減させるため、未普及集落に対し侵入防止柵設置の支援や点検等を行います。加えて、集落に対し捕獲檻等の購入支援に取り組みます。 また、捕獲隊や関係機関と連携しながらシカ・イノシシの捕獲頭数の増加を目指します。 さらに、捕獲有害獣中間処理基本計画に基づき、処理施設の候補地選定に取り組みます。				
取組内容	○侵入防止柵の設置 ・ 侵入防止柵導入(45 km 71 集落) ・ 令和6年度の侵入防止柵要望調査(8月) ・ 集落鳥獣害対策協議会設立(9 集落 累計 138 集落 111 協議会) ○農作物被害対策 ・ 被害の多い集落に対して侵入防止柵の維持管理等の集落点検を実施：8 集落(7,8月 合同：県) ・ 中獣類の生態と被害対策の研修会を開催(11月 共催：(公社)ふくい農林水産支援センター) ・ アライグマ捕獲従事者養成講習会(2月) ・ 福井市鳥獣害対策研修会(奥平町の集落点検に基づいた対策)：(2月 共催：県) ○シカ・イノシシ等の捕獲 ・ シカ・イノシシの有害捕獲の実施(通年) ○ふくい嶺北連携中枢都市圏 ・ 鳥獣害対策連絡会議(2月)、研修会(3月 ニホンザルの生態と対策)の開催 ○処理施設の候補地選定 ・ 処理施設先進地視察(5月)、地権者・地元説明(1,2月)				
指 標					
計 画			結 果・成 果		
侵入防止柵の設置：45 km 有害鳥獣による農作物被害金額 ：24,506 千円(4年度)→22,900 千円(5年度) シカ・イノシシの捕獲頭数 ：1,077 頭(4年度)→1,300 頭(5年度) 有害鳥獣を処理する施設候補地の選定			侵入防止柵の設置：45 km 有害鳥獣による農作物被害金額：22,760 千円 シカ・イノシシの捕獲頭数：1,171 頭 有害鳥獣を処理する施設候補地 減容化施設：清水地区 一時冷凍保管庫：美山地区		
成果・課題	侵入防止柵の設置、有害鳥獣による農作物被害金額の軽減ならびに有害鳥獣を処理する施設候補地の選定については、目標を達成できました。 侵入防止柵の設置については、集落に対する補助だけでなく、県と連携して集落点検等を行い、維持管理点検の強化により効果的な防除対策に今後も努めていきます。 有害鳥獣による農作物被害については、水稻の被害面積の減少など防除や捕獲等による対策の効果により、目標値よりも被害金額は減少しました。 一方で、シカ・イノシシの捕獲頭数については令和4年度より増加しましたが、目標を達成できませんでした。 来年度も今年度同様、関係機関との連携により、捕獲隊員を増やす取組を継続していくとともに、有害鳥獣捕獲において大きな負担となっている埋設処理に代わる減容化施設の整備を進め、持続的な獣害対策を行います。				

9	農地・農村環境の維持・活性	8働きがいも 経済成長も	12つくる責任 つかう責任	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	里地・里山地域の維持・活性化を図るため、古民家、耕作放棄地などの地域資源を利活用した農家民宿の整備や放牧、果樹栽培など、地域のニーズに応じた取組を支援し、コミュニティビジネス等の魅力あるビジネスの構築を推進します。				
取組内容	○里地・里山活性化事業の取組集落 ・美山地区蔵作町 ホーリーバジル農園の整備（10月） （集落内農地にホーリーバジルを作付けし、耕作放棄地 1,000 m ² を解消）				
指 標					
計 画			結 果・成 果		
里地・里山活性化事業の取組数（累計） ：30 事業（4 年度）→31 事業（5 年度）			里地・里山活性化事業の取組数（累計）：31 事業		
成果・課題	美山地区の蔵作町において耕作放棄地の利活用に取り組み、1 事業増加となりました。 今後も、引き続き地域のニーズに応じ、地域資源を活かした取組を支援することで、里地・里山地域のつながりを強化し、地域活性化に向けたコミュニティビジネスを推進します。				

V. 地域交流の活性化を図るとともに、安心して利用できる休憩空間の場を提供します

10	道の駅「一乗谷あさくら水の駅」の利用促進	8 働きがいも 経済成長も	11 住み続けられる まちづくりを	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	積極的な情報発信により施設のPRを行うとともに、季節に応じた魅力あるイベントの開催や朝倉義景没後450年を記念した限定企画を実施することで、施設の利用促進を図ります。 また、北陸新幹線福井開業を見据え、地元特産品など様々な資源を活用して、県内外客の利用満足度向上に向け取り組みます。				
取組内容	○道の駅イベント ・「一乗谷あさくらお花見膳・春の膳」開発販売（4月1日～6月30日、105食販売） ・西野カイン氏音楽ライブ&ライブペイント（5月13日：1,027人来場） ・ほたるdeおもてなし懐石（6月毎金土曜：合計201人利用） ・「一乗谷あさくら夏の膳」開発販売（7月1日～9月10日、5食販売） ・メダカ展示販売会（7月30日：1,474人来場） ・万灯夜ランチ（8月19日・20日：合計20人利用） ・お盆企画（道の駅ふくしま特産品の販売、兵庫県養父市特産品販売）（8月10日～20日） ・「一乗谷あさくら秋の膳」開発販売（9月15日～12月10日、105食販売） ・メダカ展示販売会（10月1日：1,126人来場） ・水の駅わくわく体験フェスタ、幻の都文化ステージ（11月3日～5日：合計7,780人来場） ・藤島中学校とコラボお弁当販売（11月3日・4日、220食販売） ・テイクアウト用お弁当の販売開始（1月20日～、69食販売（2月末時点）） ○体験農園等 ・田植え体験 231人（4小学校）（5月9日） ・ホタル観賞 1,250人（6月1日～25日） ・夜の虫観察会 37人（12家族）（7月22日） ・水生生物観察会 29人（10家族）（8月19日） ・稲刈り体験 231人（4小学校）（9月8日） ・園児さつまいも収穫体験 399人（13こども園・幼稚園）（9月26日～10月18日）				
指 標					
計 画			結 果・成 果		
一乗谷あさくら水の駅の来場者数 ：188,589人（4年度）→200,000人（5年度）			一乗谷あさくら水の駅の来場者数 ：184,114人		
成果・課題	今年度は、越前朝倉氏終焉450年を記念して、飲食スペースではこしのさくらますや足羽鮎など地元食材を活用した「特別膳」を提供したり、万灯夜に関連したイベントや西野カイン氏を招いたライブペイント及びコンサートを一乗谷朝倉氏遺跡と連携して開催し、工夫を凝らした誘客の取組を実施しました。また、朝倉氏発祥の地兵庫県養父市の特産品の販売や道の駅ふくしまの特産品桃の販売など広域的な資源を活用し、地元特産品を含めた特色のある物販・土産物の販売を行いました。 しかしながら、昨年度開館した福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館の入館効果を見込んだ年間の来場者目標数には達しませんでした。これは、秋の行楽シーズンに雨が多かったことに加え、博物館入館による水の駅の増客効果が想定していた程には得られなかったと分析しています。 来年度は、一乗地区や関係団体とより一層連携し、県内外客に一乗地区や水の駅の魅力を伝えるPRを行い、北陸新幹線福井開業を踏まえた更なる誘客に取り組めます。				

VI. 適正な森林整備と木材利用の普及啓発を推進し、木材の有効活用に取り組みます

11	森林の多面的機能の強化	DX	13 気候変動に 具体的な対策を	15 陸の豊かさも 守ろう	達成度	
実 行 内 容						
行動目標	森林環境譲与税を活用し、山地災害の防止、水源涵養、保健休養、木材の生産等の多面的機能を強化するため、荒廃した民有林等の整備に継続して取り組みます。 また、航空レーザー測量等 I C T を活用しながら森林の所有者に対して、今後の管理に関する意向調査を実施します。 さらに、老朽化が進む林道橋梁等の補修を計画的に進めるため、林道橋梁及びトンネルの個別施設計画の改訂を行うとともに、橋梁の補修を行います。					
取組内容	○森林整備面積 ・市内 3 森林組合や民間団体が間伐を実施 (377.54ha) ○意向調査着手エリア (大宮町、縫原町、野波町、南宮地町、計石町地区) ・意向調査地権者説明会に係る自治会長への説明 (8 月) ・大宮町、縫原町地区説明会 7 カ所 (10 月、12 月)、 野波町、南宮地町、計石町地区 4 カ所 (10 月、12 月)、南宮地町 (11 月)、 ・意向調査 13 カ所を実施(大宮町、縫原町、野波町、南宮地町、計石町地区：11 月～1 月) ○補修した林道橋梁数 ・本年度補修が完了した橋梁： 深之谷橋 (深之谷線) ・前年度までに補修が完了した橋梁： 長堀橋 (越前西部 3 号線)、二枚田幹 1 号橋、2 号橋 (二枚田幹線)、梅ヶ岩橋 (梅ヶ岩線)、 中手 2 号橋 (中手線)、小当見向山 2 号橋 (小当見向山線)					
指 標						
計 画			結 果 ・ 成 果			
④5 森林整備面積 ：434.79ha (4 年度) →460ha (5 年度) 意向調査着手エリア ：12 カ所 (4 年度) →13 カ所 (5 年度) 林道橋梁及びトンネルの個別施設計画の改訂 補修した林道橋梁数 (累計) ：6 橋梁 (4 年度) →7 橋梁 (5 年度)			④5 森林整備面積 ：377.54ha 意向調査着手エリア ：13 カ所 林道橋梁及びトンネルの個別施設計画の改訂 補修した林道橋梁数 (累計)：7 橋梁			
成果・課題	森林環境譲与税を活用し、小規模の森林整備や高性能林業機械レンタルの支援に加え、県の森林整備の支援が拡充しましたが、7 月の災害対応により計画していた森林整備を取りやめた箇所があったため、森林整備面積の目標を達成することができませんでした。 また、登記名義人の死亡による法定相続人の調査など森林所有者の特定に時間を要しましたが、対象地をまとめたことで地元の説明会が効率化されたことにより目標を達成することができました。 今後、20 年間で市内 672 林班の意向調査を進めるため、税情報を活用した所有者の把握や業務委託による迅速で効率的な調査に取り組み、地域に応じた適正な森林整備を進めます。 さらに、福井市林道施設長寿命化計画 (個別施設計画 橋梁) に基づき、橋梁の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態の 1 橋を補修しました。 また、令和 6 年 3 月に改訂した福井市林道施設長寿命化計画 (個別施設計画 橋梁、トンネル) に基づき、早期に補修が必要な橋梁を順次補修していきます。					

12	林業の担い手の育成	8働きがいも経済成長も 15陸の豊かさも守ろう 達成度 			
実行内容					
行動目標	林業の担い手を確保するため、本年度、美山地区に民間主体で創設される自伐型林業大学の受講者に対する支援を行うほか、林業従事者の資質向上や効率的な作業環境を構築するため、ドローンの国家資格など林業技術資格取得費用や林業機械レンタル費用などの一部を助成します。				
取組内容	○受講生が負担する学費など受講生の生活に必要な費用に対し支援 自伐型林業大学の各コース3期開催 ・自伐型林業基礎スタートアップコース 33人 ・自伐型林業技能スキルアップコース 29人 ・自伐型林業独立経営スキル習得コース 33人 ○ドローンの国家資格取得者数 ・ドローンの資格取得の受講料に対し支援 福井森林組合（2人） 越前福井森林組合（1人）				
指標					
計画			結果・成果		
自伐型林業大学の受講者数：30人 ドローンの国家資格取得者数：3人			自伐型林業大学の受講者数：37人 ドローンの国家資格取得者数：3人		
成果・課題	令和5年4月に民間主体で開校した自伐型林業大学の受講生に対し、主催者及び運営主体と連携し、事業周知を行った結果、目標を達成し、受講生の技能向上を図ることができました。 ドローンの国家資格取得支援については、森林組合等の林業事業体に対し、林業のDX化を進める上で必要な高度な技術や資格に対し支援を行った結果、目標を達成し、森林整備の生産性と効率化をさらに高めることができました。 今後も、大学校に対する支援や林業のデジタルトランスフォーメーションに対し支援を継続し、林業の担い手育成に努めます。				

13	林業の成長産業化の推進	8 働きがいも 経済成長も	15 陸の豊かさも 守ろう	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	森林資源の「伐る、使う、植える、育てる」という循環利用に取り組むことで、林業の生産性の向上や市産材の需要拡大に努めます。 令和4年3月に策定した福井市木育・森育基本方針に基づき、木材の活用や普及啓発を図るため、木育・森育施設の木造・木質化又は木製品等の導入を支援します。 また、森林資源を無駄なく有効利用するため、薪ストーブなどの木質バイオマス利用機器の導入に対し支援台数を拡充します。				
取組内容	○木材生産量 ・市内3森林組合などが間伐材等を搬出（49,618 m³） （A材：12,130 m³、B材：9,384 m³、C材：28,104 m³） ○木育・森育施設の木造・木質化又は木製品等の導入 ・木造・木質化 「いただき繕福井越廼」が空き家を利用し子供の遊び場を整備 「社会福祉法人 竹伸会」が園庭に大型木製滑り台を整備 ・木の積み木・調度品等木製品の導入 「めぐみ保育園」「仁愛保育園」「梅園保育園」「福井佼成幼稚園」「森田児童クラブ」「福井ユニテット」「いただき繕福井越廼」 ○木質バイオマス利用機器導入 ・市民及び事業者18件から申請があり、薪ストーブなどの木質バイオマス利用機器を導入 月別申請件数 6月：8件、7月：2件、9月：1件、10月：1件、11月：2件、12月：4件				
指 標					
計画		結果・成果			
木材生産量（A材＋B材＋C材）：41,600 m³ 木育・森育施設の木質化又は木製品の導入：5施設 木質バイオマス利用機器導入：20台		木材生産量（A材＋B材＋C材）：49,618 m³ 木育・森育施設の木質化又は木製品の導入：9施設 （木質化2施設 おもちゃ7施設） 木質バイオマス利用機器導入：18台			
成果・課題	木材生産量については、県外のバイオマス施設の需要が増えたことや、森林組合等が整備するために必要な所有者同意に対する支援、国の主伐再造林に対する支援が充実したことにより、主伐、間伐を順次進めることができる環境が整備でき、目標を達成することができました。 木育・森育施設の木造・木質化又は木製品等の導入は、7月に募集を行ったところ、木製品購入への関心の高さだけでなく、木質化では2施設、木製品の導入で7施設の応募があり木造・木質化の施設整備が進み、目標を達成することができました。 木質バイオマス利用機器導入については、昨年の10台から20台に拡充を行い、6月20日より募集を開始し、秋以降にも再度薪ストーブ事業者などに対し周知に努めましたが、応募台数は18台にとどまり、目標台数に達することができませんでした。 今後、市民ニーズを把握しながら子供が木に触れる空間整備をはじめ、施設の木造・木質化が進むよう支援対象の拡大を検討し、また、これらの事業を周知し木材の有効活用に取り組みます。				

VII. つくり育てる漁業を推進するとともに、水産物の販売力強化等の取組を進めます

14	水産資源の維持と所得向上	8働きがいも 経済成長も	14海の豊かさを 守ろう	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	漁業所得の向上と水産物の安定供給を図るため、水産資源の維持につながる稚魚・稚貝の放流、漁港の未利用水域を活用した養殖、漁場環境を改善する海底耕うんに対し支援します。 また、高鮮度出荷に取り組む漁業経営体の漁船機器更新を支援します。				
取組内容	○直接放流及び中間育成放流 ・アワビ中間育成放流 18,000 尾 (4/18, 19) ・ヒラメ直接放流 7,500 尾 (7/24) ・マダイ直接放流 10,000 尾 (10/3) ・サザエ直接放流 7,000 個 (8/31、9/1, 14, 15) ○養殖 ・サクラマス 525 尾 (4～5 月出荷)、バフンウニ 4,095 個 (7/31 出荷) ○海底耕うん ・鷹巣沖漁場 4km² (6～8 月)、福井三国第 2 漁場 15km² (6～8 月) ○漁船機器更新 ・底曳網漁船の冷水機更新 (8 月)				
指 標					
計 画			結 果・成 果		
総 44 漁業生産額：300,000 千円 養殖サクラマスの生産数：500 尾 漁船機器等の更新を行う経営体数：1 経営体			総 44 漁業生産額：298,000 千円 養殖サクラマスの生産数：525 尾 漁船機器等の更新を行う経営体数：1 経営体		
成果・課題	漁業生産額は、台風や急潮等で被災した鷹巣地区の定置網漁業が操業できなかったことから、目標額を達成することができませんでした。 今後、水産資源を維持するための稚魚・稚貝の放流や、漁場環境の改善を図るための海底耕うんを継続して行うことで、漁業生産額の増加を目指します。 サクラマスやバフンウニの養殖は、養殖技術が向上してきたことにより、目標とする生産数を達成することができました。また、陸上養殖から漁港の未利用水域を活用した海面養殖へ転換することにより、生産コストの縮減も図れています。今後、養殖を担う意欲的な人材を確保するとともに、販路の拡大にも取り組んでいきます。 漁船機器等の更新については、漁獲物の高鮮度出荷による付加価値向上を図るため、底曳網漁船の冷水機の更新を支援しました。近年、スマート水産業の技術が進んでいることから、国や県の動向を注視しながら、本市漁業の生産性向上や省力化につながる機器導入支援を検討していきます。				

15	地魚の販売力強化	9産業と技術革新の基盤をつくろう 14海の豊かさを守ろう	達成度	
実 行 内 容				
行動目標	地魚の販売力強化を図るため、未利用・低利用の水産物を使った加工品づくりを推進し、水産加工業者と高校生による新商品開発を支援します。 また、漁業協同組合や漁業者等が行う鮮魚・水産加工品の販売会、地魚の消費促進や魚食推進を目的とした料理教室を支援します。			
取組内容	○未利用・低利用の水産物を使った加工品づくり ・商品化した4品目のお披露目会開催（10/6） ・越前ふくいマルシェに出展（10/14, 15） ・市内小中学校の学校給食で提供（11月～3月） ・開発した商品及びこれまでの取組を紹介するパンフレット完成（2/19） ・シーフードショー大阪に出展（2/21, 22） ○鮮魚・水産加工品の販売会、料理教室 ・こしのさかなまつり（5/28） ・直売会（6/17, 7/29） ・料理教室（11/26）			
指 標				
計画		結果・成果		
オリジナル水産加工品の商品化：1品目 鮮魚・水産加工品の販売会、料理教室：3回		オリジナル水産加工品の商品化：4品目 鮮魚・水産加工品の販売会、料理教室：4回		
成果・課題	主に定置網漁業で水揚げされる低利用魚を使ったオリジナル水産加工品の商品化に向けて、啓新高校調理科と市内食品加工業者等が協力しながら商品開発を行い、改良を重ね、目標を大きく上回る4品目を完成させることができました。これらの商品は、越前ふくいマルシェやシーフードショー大阪、北陸新幹線開業イベントで試食・販売するとともに、市内小中学校の学校給食でも提供しました。今後も市内スーパーでの店舗販売や学校給食での提供を予定しています。 また、地魚の消費拡大や魚食推進を図るため、こしのさかなまつりや菜崎漁港での直売会を支援するとともに、親子参加型の料理教室の開催を支援しました。今後も直売会や料理教室の開催を支援していきます。			

16	災害に備えた漁港施設及び 海岸保全施設の更新	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	14 海の豊かさを 守ろう	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	高潮や高波等の自然災害から漁港の背後集落を守るとともに、安全に漁業活動が行えるよう、長寿命化計画や日常点検の調査結果に基づき、漁港施設及び海岸保全施設の保全工事を行います。				
取組内容	○大丹生漁港浚渫工事 ・浚渫工 V=180m3 (5/31 完了) ○大丹生漁港西護岸補修工事 ・西護岸補修 I 式 (8/11 完了) ○長橋菅生漁港防波堤老朽化調査 ・調査延長 L=106.2m (6/30 完了)				
指 標					
計 画			結 果・成 果		
大丹生漁港浚渫工事 大丹生漁港西護岸補修工事 長橋菅生漁港防波堤老朽化調査			大丹生漁港浚渫工事：5 月完了 大丹生漁港西護岸補修工事：8 月完了 長橋菅生漁港防波堤老朽化調査：6 月完了		
成果・課題	計画していた漁港施設及び海岸保全施設に関する工事および調査は早期発注に努め、全て上半期に完了することができました。 今後も、長寿命化計画や日常点検の調査結果に基づき、老朽化した漁港施設及び海岸保全施設の保全工事を適切に行っていきます。				

Ⅷ. 地場産品を取り扱う中央卸売市場の認知度向上を図るとともに、安定供給のため施設の整備に取り組みます

17	市民に魅力ある市場の提供	2 顔面を ゼロに	17 パートナーシップで 目標を達成しよう	達成度																																								
実 行 内 容																																												
行動目標	食の安全・安心な流通拠点としての役割を周知するため、SNSやホームページ等を活用し、魅力的な地場産品等の情報発信に取り組み、地産地消を推進します。 さらに、「ふくい鮮いちば」の認知度を向上させるため、ふくい鮮いちば実行委員会と連携したイベントの開催を定期的に行い市民への周知を図るとともに、北陸新幹線福井開業に向け観光客やリピーターの増加にも取り組みます。																																											
取組内容	○地場産品等の情報発信96回（ホームページ53回、Facebook41回、広報ふくい2回） ○「ふくい鮮いちば」開催イベント13回46,404人 <table><tr><td>ふくいサーモン祭</td><td>4月</td><td>1,924人</td></tr><tr><td>九頭竜サクラマス祭</td><td>5月</td><td>2,085人</td></tr><tr><td>半夏生フェア</td><td>6月</td><td>1,927人</td></tr><tr><td>土用の丑の日</td><td>7月</td><td>1,870人</td></tr><tr><td>おかえりな祭</td><td>8月</td><td>2,376人</td></tr><tr><td>ふくい市場フェスタ</td><td>10月</td><td>3,705人</td></tr><tr><td>食品ロスをなくそう</td><td>10月</td><td>3,291人</td></tr><tr><td>9周年祭</td><td>11月</td><td>1,365人</td></tr><tr><td>カニフェア</td><td>11月</td><td>2,691人</td></tr><tr><td>歳末大市</td><td>12月</td><td>14,508人</td></tr><tr><td>天神講</td><td>1月</td><td>4,160人</td></tr><tr><td>若狭のええ魚市</td><td>2月</td><td>5,368人</td></tr><tr><td>つながるフェア</td><td>3月</td><td>1,134人</td></tr></table> ○リーフレットの配布福井、石川の温泉施設等3,310部 ○「ふくい鮮いちば」のポスター掲示（南条SA下り、一乗谷あさくら水の駅） ○市場見学会親子3回86人（7/21、7/24、7/28） 学校等33団体1,064人					ふくいサーモン祭	4月	1,924人	九頭竜サクラマス祭	5月	2,085人	半夏生フェア	6月	1,927人	土用の丑の日	7月	1,870人	おかえりな祭	8月	2,376人	ふくい市場フェスタ	10月	3,705人	食品ロスをなくそう	10月	3,291人	9周年祭	11月	1,365人	カニフェア	11月	2,691人	歳末大市	12月	14,508人	天神講	1月	4,160人	若狭のええ魚市	2月	5,368人	つながるフェア	3月	1,134人
ふくいサーモン祭	4月	1,924人																																										
九頭竜サクラマス祭	5月	2,085人																																										
半夏生フェア	6月	1,927人																																										
土用の丑の日	7月	1,870人																																										
おかえりな祭	8月	2,376人																																										
ふくい市場フェスタ	10月	3,705人																																										
食品ロスをなくそう	10月	3,291人																																										
9周年祭	11月	1,365人																																										
カニフェア	11月	2,691人																																										
歳末大市	12月	14,508人																																										
天神講	1月	4,160人																																										
若狭のええ魚市	2月	5,368人																																										
つながるフェア	3月	1,134人																																										
指 標																																												
計画			結果・成果																																									
地場産品等の情報発信 ：82回（4年度）→85回（5年度） ふくい鮮いちばイベント回数 ：11回（4年度）→12回（5年度） イベント時来場者数 ：43,215人（4年度）→43,500人（5年度）			地場産品等の情報発信：96回 ふくい鮮いちばイベント回数：13回 イベント時来場者数：46,404人																																									
成果・課題	地場産品等の情報発信については、安全・安心な生鮮食料品のPRや旬な食材の情報を定期的に発信し、目標を達成することができました。 場内事業者やふくい鮮いちば実行委員会と連携し、ふくい市場フェスタを4年ぶりに開催し多くの方に来場していただきました。また、「ふくい鮮いちば」では、当初予定していなかったイベントを加えるなど工夫を凝らした取組を行い、目標を達成することができました。 令和6年度には市場開設50年を迎えることから、記念事業（記念式典、市場フェスタ）を開催します。また、魅力的なイベントの実施や地場産品等の情報発信を継続的にを行い、北陸新幹線福井開業による効果を活かし、観光誘客への取組を強化していきます。																																											

18	市場の整備及び維持管理	9産業と技術革新の基盤をつくろう	12つくる責任つかう責任	達成度	
実 行 内 容					
行動目標	安全・安心な生鮮食料品等を安定的に供給し、災害時においても即応できる食料供給の拠点として、施設や設備の更新工事を計画的に行い、市場機能の確保を図ります。				
取組内容	○卸売棟屋根防水工事12 月完了 ○自動火災報知設備外改修工事10 月完了 ○冷凍機更新工事2 月完了				
指 標					
計 画			結 果 ・ 成 果		
卸売棟屋根防水工事：12 月完了 自動火災報知設備外改修工事：12 月完了 冷凍機更新工事			卸売棟屋根防水工事：12 月完了 自動火災報知設備外改修工事：10 月完了 冷凍機更新工事：2 月完了		
成果・課題	全ての工事が計画どおり完了し、市場機能の保全に努めることができました。 来年度以降も計画的な施設の改修及び機器の更新を行い、市場機能の安定を図ります。				